

4. ゼロ歳時から漢字教育を

さて、私が昭和 42 年以降実験をして居ります、幼児の漢字学習能力が非常に高いといふことについて話を進めます。

昭和 42 年まで、「小学校の一年生がこんなに優れた能力を持ってゐるからには、その前の、五歳の幼稚園児だったら恐らく小学五、六年生に負けない漢字学習能力があるに違ひない」と思つてゐたのですが、その頃はまだ誰も相手にしてくれる人がゐませんでした。一年生が一番良く漢字を覚えるといつても信じてくれませんでしたし、当時はまた、世界中の幼児教育が「文字教育はすべきでない」と断定してゐた時代でしたから、そんな実験をしてくれる人がゐるわけでもありませんでした。

そんなことで私は自分の子供に実験してみたりしてゐたのですが、昭和 43 年になりまして、その正月から大阪の小路幼稚園の井上文克先生が実践して下さることになりました。現在では恐らく全国で千に近い幼稚園がこの漢字教育の実践をして下さつてゐるはずで、昨年(昭和 59 年)石井方式の漢字教育実践幼稚園による全国的な組織が作られました。幼年国語教育会といひますが、唯今 272 園(当時)がこれに加盟してゐます。この会にまだ加盟はしてゐませんが、この教育を採り入れてゐる園はかなりあるやうで、恐らく千に近い幼稚園でこの漢字教

育が実行されてゐると思はれます。さて、五歳児に教へてみますと、小学生の場合に較べて実に無雑作に漢字を覚えることが判りました。小学生は教へられて初めて覚えるのですが、幼児はあつといふ間にひとりりで覚えてしまひます。四歳児も三歳児も全く天衣無縫と言つた覚え方で覚えます。私はこれを“無努力無負担の学習”と呼んでゐます。そんなわけで現在はゼロ歳児の漢字教育をやつてゐる所です。

ところが、ゼロ歳児の漢字教育と言ひますと、大抵の人が拒絶反応を示します。私の理論のよき理解者で、障害児の教育を熱心に指導してゐて下さる方でさへも、これだけは信じ難いやうなので、私はもうゼロ歳児の漢字教育は口にすまいと、つい最近まで思つてゐました。今何でこれを口にするのかといひますと、この間井深大先生にお会ひする機会がありました。これは 11 月に行はれます全国漢字漢文教育研究会の全国大会に記念講演をお願いするためでした。その席上二、三応酬がありまして、井深さんがゼロ歳児からの漢字教育に非常に熱意を持ってゐらっしゃることが解りました。「漢字教育は三歳児からでは遅いのではないか。ゼロ歳から始めるべきではないか」と井深さんが言はれたのです。それで私も勇気づけられまして、これからは積極的にゼロ歳からの漢字教育を口にしようと決心したわけです。

さういふわけで、漢字は言葉の覚えられないゼロ歳の赤ちゃんでも

覚えられます。まだ言葉は覚えられない赤ちゃんが、漢字は覚えられます。私はいつも事実^{もとづ}に基いてものを言っているのですが、いくら事実であっても、その事実が今まで皆が信じ切ってきたこととは正反対の、180度反対のことなのでなかなか信じてくれません。しかし、どんなに信じ^{がた}難い事でも、事実である以上それだけの理由があるものです。調べてみますと、なるほどといふ理論がちゃんとあります。今日これを詳しく述べる時間がありませんから、簡単に申します。ゼロ歳のまだ言葉の覚えられない赤ちゃんが、漢字だとなぜ覚えられるのか。これは保育園が集団教育としてやっているのですが、子供に漢字を見せながら実物と対照させます。勿論言葉に出しても言ひます。例へば花をみせて「これは花」「花」と繰り返していひながら、実物の花や花といふ漢字を見せるわけです。実はこの方法は私が十数年前に指導した言葉の覚えられない脳障害児に対するものと同じ方法です。言葉が言へない、覚えられない子供でも、池とか水とか窓とか、実物と対照させながら漢字を見せてやってあげれば、やがてそれを認識することができるようになります。花といふ漢字を花の^{かたはら}傍に置くようになります。しかしその段階ではまだ言葉は覚えられません。

その理由は、簡単に言ひますと、言葉は、口から出た瞬間に消えてしまふことにあります。しかし大体二つ以上の異なった音声が組合って

成立ってゐます。これは一音でも覚え難いものですから「目」の事を「メーメ」、手の事を「テーテ」といふ風に昔から言っている。このやうに「メーメ」と同じ音が反復されるので子供は受取りやすくなりますが、それでも瞬間的のものであとに残りません。だから頭の弱い^こ児や赤ちゃんにはなかなか受取れません。これが言葉の覚えにくい理由です。ところが、漢字は目を開いてゐる限り、ひっきりなしにそれが図形として目に入ってくるのです。言はば一日中その漢字を読んでゐるみたいなもので、だから、漢字が覚えられないものはゐないのです。覚えようといふ気がなくてもひとりでに頭に入ってしまう。又、幼児期といふのは一生のうちで最も記憶力の強い時期なのです。ですから、“窓”といふ漢字を窓の^{かたはら}傍に貼っておけば、窓といふ漢字がひとりでに頭に入るし、“青”といふ漢字を見せれば青いセーターを着てゐる^こ児は自分のセーターをひっぱって見せることができるやうになるのです。

漢字といふものはこんなにも^{やさ}易しいものなので、本来あるがままにして自然に^{まか}任せておけば、漢字で苦労することなども考へられませんか。ゼ二歳の時から漢字を見せて育てれば、小学校に入るまでに^{たれ}誰でも苦労しないで自然に一千字以上の漢字が覚えられます。